

～飛騨市地域学校協働活動レポート 第7号～

2021年6月1日(飛騨市学園構想 Facebook ページより)

~~~★CS(コミュニティ・スクール)&地域学校協働活動レポート★~~~

今日は5月18日に実施された山之村小中学校区の学校運営協議会のレポートです。(会議に夢中で写真を撮り損ねたので、天空の牧場 山之村牧場の牛さんの写真とともに・・・)

山之村小中学校は、神岡町からさらに車で20～30分程度のぼった、「天空の牧場」と言われるとても自然が多く素敵なところにあり、小学校1年～中学校3年生まで同じ校舎にて全校生徒10数名の小規模学校です。コミュニティ・スクールで掲げられている「地域とともにある学校づくり」も、地域学校協働活動で言われている「学校を核とした地域づくり」も、昔から当たり前に行われている、まちの中心にはいつも学校や子どもたちがいる学校と言えます。



学校運営協議会では、校長先生より山之村の子どもたちの特徴や学校生活での課題が述べられた後、学校経営の全体構想についてお話しがありました。課題としては、

- 1、少人数のため教師が関わりすぎ主体性が育ちにくい
- 2、活動の数が多く、内容の吟味がもっと必要である
- 3、中学生がリーダーになりすぎると、小6の主体性が育ちにくい

など、小中併設校だからこそその課題が挙げられ、学校教育目標である「ゆたかに たくましく やりぬく子」を目指すために、職員は、

- 1、待つ、話をおらない、なぜ、を問う
- 2、全教育活動で対話力や会話力のつく活動を仕組む
- 3、やるべきことは全員がやる。提案は「目的」を明確にし、「いつ、どこで、誰が、何をするか」を明確にする

を意識して取り組んでいるとお話がありました。

学校運営協議会の委員は長年学校の活動を支え続けているPTAの方をはじめ、山之村の特産品である寒干し大根を生産する方、保育園保護者、民生委員の方、そして地域学校協働活動推進員らで構成され、学校からの全体構想について、「すごく細やかに一人一人を見てくれていて有り難い」「活動の内容は素晴らしいが、子どもたちのやりたい！という思いをもっと引き出すようにしてもいいのでは？」「何か子どもたちの中で起こっても、最後まで教員保護者生徒交えて考えてくれるので納得して次に進める」など、活発な意見が出されました。その後、全学年の授業を協議会メンバーで見学させてもらいましたが、「生徒の答えを待つ」という姿勢が全ての授業で

現れている他、英語ではとにかくコミュニケーションを中心とし、体育でもただ身体を動かすのではなく「自分の身体との対話」を通して活動するという工夫がされており、一同とても驚きました^^

学校運営協議会の組織としては、学校支援部(主に PTA 活動に位置付け)と地域活動部(山之村マラソンなどの行事や公民館行事など)に今年度より分かれ、今年は特に学校設立40周年ということもあり、地域全体をあげた企画に向けて動いていくこととなりました。

協議会の最後には、いじめ防止対策についての学校の取り組みの丁寧な説明があった他、学園構想についてもコアチームから飛騨市全体で目指しているビジョンのお話などがありました。

---

学校区の委員だけでなく、幅広い方達の参画をいただき作っていくのがこの活動です。ぜひ、ご協力いただける方は飛騨市の地域学校協働活動の事務局(生涯学習課 0577-73-7495)までお気軽にお問い合わせくださいね！